

2015年ネパール地震からみた衛星データの役割 Role of the satellite data during the 2015 Nepal earthquake

作野 裕司^{1*}; 伊東 明彦²; 桑原 祐史³
SAKUNO, Yuji^{1*}; ITO, Akihiko²; KUWAHARA, Yuji³

¹ 広島大学, ² 宇宙技術開発株式会社, ³ 茨城大学

¹Hiroshima University, ²SPACE ENGINEERING DEVELOPMENT Co., Ltd, ³Ibaraki University

2015年4月25日(現地時間)にネパールの首都「カトマンズ」の北西77km付近で発生した大地震(ここでは「2015年ネパール地震」と呼ぶ)では、多くの建物被害や土砂災害が発生した。現地では今なお余震が続いており、被害が拡大している。リモートセンシング学会は、このような大規模災害時にいち早く現地の情報を提供できる「衛星データ」を扱う学会員が非常に多いのが特徴である。今回の「2015年ネパール地震」においても、災害直後から被災地の衛星データや解析結果が多数報告された。そこで、今回の「JpGU ネパール地震の緊急セッション」では、これらの提供データの一部をまとめ、解析例を報告するとともに、災害時の衛星画像利用のしくみについて紹介する。

キーワード: リモートセンシング, ネパール, 災害, 衛星

Keywords: remote sensing, Nepal, disaster, satellite